

平成19年度食育モデル民間団体実践活動事業報告書(概要)

1. 団体名

特定非営利活動法人 地域循環研究所

2. 実施事業の名称

食育モデル民間団体実践活動事業

3. 活動概要等

(1) 目的	食べる力をすべての子どもに与えるには、毎年、すべての学校で食育カリキュラムが実施される必要がある。 長崎県佐世保市において、すべての子どもたちが食育を受講できるよう、地域版「食事バランスガイド」の教材を作成する。
(2) 活動の概要	教材（食育ワークブック）編集委員会を開催し、食事バランスガイドの使用を促す教科書、指導書の内容の検討を行い、食育ワークブックを編集した。また、佐世保市の小学校において食事バランスガイドに関するセミナーを行った。
(3) 活動の特徴	<ul style="list-style-type: none">・ 広く食育を実施するため、効果的な普及媒体として教材を開発した。・ 教材に掲載する内容を子どもの食の現状、最低限身につけるべき基本的な技術を考慮して厳選した。・ 児童が、食の知識だけでなく、実生活につながる技術もみにつけられる内容とした。・ 教師に簡単に教材を使用してもらうため、家庭科等、教科と連携させて授業を実施できるよう工夫した。
(4) 地域への波及効果	佐世保市の小学校においてセミナーを実施したことで、保護者・教師に食事バランスガイドを普及することができた。さらに、来年度、本事業で開発した食育ワークブックが佐世保市の小学校で使用されると、更なる普及が見込まれる。

平成19年度食育モデル民間団体実践活動事業報告書

1 団体名 特定非営利活動法人 地域循環研究所

2 事業テーマ：「すべての学校で食育を！」

3 事業の目標：食べる力をすべての子どもに与えるには、毎年、すべての学校で食育カリキュラムが実施される必要がある。

本事業では長崎県佐世保市（人口25万人、小中学生2万4千人、教員1300人）において、すべての子どもたちが食育を受講できるよう、地域版「食事バランスガイド」の教材を作成することを目的とする。

4 実施場所：長崎県佐世保市

5 事業内容

①食育ワークブック編集委員会の開催

実施日：7月27日、12月4日

場所：佐世保市役所

佐世保市教育委員会、教師、健康づくり課を構成員とする、食育ワークブック編集委員会を開催し、「食事バランスガイド」の実践を基本とする教材の内容の検討を行った。参加者は食育ワークブックの試作品に目を通し、教師が使いやすくするための工夫や子どもに伝えたいことなどについて活発に議論を行った。



② セミナーの開催

実施日：9月11日、10月29日

実施場所：黒髪小学校、吉井北小学校

講師：中村修准教授

「食事バランスガイド」を活用した食育の理解を深めるため、昨年度モデル校として食育に取り組んだ学校の教員、および（モデル校以外で）希望する教員、保護者を対象に、セミナーを開催した。参加者は講師の話に熱心に聞き入り、食事バランスガイドへの理解を深めた。



③セミナー受講者へのアンケート調査の実施

「食事バランスガイド」についてセミナー受講者へアンケート調査を行った。

④ 佐世保版食育ワークブックの編集

セミナーでの議論、アンケート、編集委員会での議論をふまえて、食育ワークブック指導書、児童用の編集を行った。また、授業に役立つ映像の編集、および教材を作成し、CDに入れて、食育ワークブックに添付した。

- ・ 佐世保版食育ワークブック児童用36p 2800部 市内の小学校5年生全員
指導書32p（映像、教材CD付属）500部教師（5,6年生の担任、各学校の主任）
- ・ 作成したワークブックは、小学校の教員と佐世保市の5年生全員に配布する。小学校の場合、6学年を通しての連携で授業が行われるため、他の学年の教師も5年生で食育がどのような内容で実施されているかを知る必要がある。このことで、4年生までに、1, 2年生の低学年、3, 4年生の中学年で食育で何をどう教えればいいのか、という連携につながる。
- ・ 指導書は、5, 6年生の担任と各学校の主任に配布する。
- ・ 主任は全体を通して理解する必要があるため、指導書を配布する。このことで、主任が全体の学年の食育指導の連携につなげる。



食育ワークブック指導書



食育ワークブック児童用

6 事業の効果（アンケート調査の結果等できるだけ数値で記載。）

セミナーにおけるアンケート調査結果

■ 実施場所 長崎県佐世保市吉井北小学校

■ 実施日時 2007年10月29日16:00～

■ アンケート回答者数 47

■ 回答者属性

性別：男6名、女38名、無記入2名

年齢：10代1名、20代0名、30代20名、40代15名、50代5名、60代4名、
無記入2名

同居している家族：60歳以上の高齢者がいる16名、友働きのご夫婦がいる23名、
専業主婦がいる11名、高校生・専門学校生・短大生・大学生がいる7名、
小中学生がいる29名、学齢期前の乳幼児がいる8名、一人暮らし2名

所属：小学校教員10名、中学校教員0名、栄養士1名、栄養教諭0名、保護者
25名、その他7名、無記入4名

■ 結果

1. 「食事バランスガイド」を知っているもの。

内容を含め知っている14名、名前程度は聞いたことがある11名、知らなかった
21名、無回答1名

1-1. 内容を含め知っているもののうち、食事や買い物の際、「食事バランスガ
イド」をどの程度参考に行っているか。

いつも参考に行っている1名、時々参考に行っている3名、あまり参考に行してい
ない9名、まったく参考に行していない1名

1-2. 「食事バランスガイド」を参考に行っているもののうち、どのように参考に行
っているか。

食事を作るときメニューのサービング数を計算している1名、料理例に表示し
ているサービング数を参考としている1名、料理例を参考に主食・副菜・主菜
・牛乳・乳製品・果物を摂るようにしている10名、商品に「食事バランスガイ
ド」が添付してあるものを優先的に選ぶようにしている0名、その他1名

2. 今回の講演会に参加して「食事バランスガイド」への意識は変化したか。

以前から理解していて活用しているので変化はない6名、よく理解で着たので
参考にしたい30名、よく理解できたが参考にしたいとは思わなかった3名、よ
く理解できなかった3名、分からない2名、無回答3名

2-1. 「食事バランスガイド」を参考にしたいと思わない理由。

すでにバランスのよい食生活をおくっているから2名、面倒だから1名

3. 今回の講習会に参加して今後やってみたいと思ったこと。
自分の食生活をチェックする35名、お米を中心にした日本型食生活を見直す30名、農作物の生産現場を体験する1名、食文化を学ぶ2名、地元の農産物の利用を増やす7名、その他2名
4. 教員のうち、「食事バランスガイド」を教育現場で使おうと思うものの割合
すでに使用している4名、授業で使いたいと思う4名、使いたいと思うが実際に使うか分からない2名、使用しない1名
- 4-1 「食事バランスガイド」を教育現場で使わない理由
「食事バランスガイド」の知識がない2名、「食事バランスガイド」の乳製品に関する部分が必要ないと考えるため1名